

平成28年度沖縄県学力到達度調査の結果概要

沖縄県教育庁義務教育課

1 趣 旨

本県児童生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実を図る。

2 実施期日・対象学年・教科

(1) 小学校調査：平成29年2月22日(水)

対象学年	教科	対象学年	教科
第3学年	国語、算数	第5学年	国語、算数、理科
第4学年	算数	第6学年	算数

(2) 中学校調査：平成29年2月23日(木)、2月24日(金)

対象学年	教科
第1学年	数学
第2学年	国語、社会、数学、理科、英語

3 教科の調査結果（平成29年3月9日現在）

(1) 小学校

対象学年	教科	児童数 (名)	平均正答率 (%)	平均誤答率 (%)	平均無解答率 (%)	正答率30% 未満(%)
第3学年	国語	15,594	59.4	34.6	5.9	9.1
	算数	15,638	76.2	22.5	1.3	1.4
第4学年	算数	15,417	62.8	33.6	3.6	7.4
第5学年	国語	14,827	60.9	33.8	5.3	8.5
	算数	14,865	63.4	31.8	4.8	7.3
	理科	14,840	58.9	39.9	1.1	6.5
第6学年	算数	15,109	58.9	35.7	5.5	9.6

(2) 中学校

対象学年	教科	生徒数 (名)	平均正答率 (%)	平均誤答率 (%)	平均無解答率 (%)	正答率30% 未満(%)
第1学年	数学	14,392	40.8	46.3	12.9	36.4
第2学年	国語	14,479	61.2	35.4	3.3	5.8
	社会	14,456	47.7	48.1	4.2	16.7
	数学	14,461	53.9	38.4	7.7	17.4
	理科	14,473	45.1	47.7	7.2	25.5
	英語	14,489	51.4	44.8	3.8	20.9

4 結果の概要（正答率30%未満児童・生徒の視点から）

(1) 小学校

正答率30%未満児童の割合が、小学校3年生の算数が最も小さく、5%以内で良好な結果であった。しかし、算数では学年が上がると正答率30%未満児童の割合が大きくなる傾向がある。

国語については、算数と比較すると早い段階（小3）から正答率30%未満児童の割合が大きい。

(2) 中学校

正答率30%未満生徒の割合が中学2年生の国語が最も小さく、10%以内になっており他教科と比べ、良好な結果であった。国語以外では正答率30%未満生徒の割合が10%以上となっており、特に中1数学36.4%で最も大きく、平均無解答率も10%以上となっている。

5 授業改善のポイント

(1) 小学校

① 国語

表現をよりよくするためには、書いたものを読み合い、助言し合う活動が必要である。児童が、互いの文章の種類や特徴を捉えた上で、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかどうかについて具体的に助言することが大切である。その際、接続語を使ったり、二文を一文にしたりするなど、様々な表現方法を生かし、推敲等で分類・整理する活動を取り入れながら書くことの指導を工夫する必要がある。

② 算数

判断の理由を説明するときに、根拠となる数値や図形の構成要素を明確にするように指導する必要がある。

また、数量の関係を、図や式、言葉を相互に関連させて捉えさせる指導の工夫が必要である。特に、割合を活用した問題については、基準量・比較量・割合の関係を数直線や図などを用いて整理するなど、数量の関係を正しく捉えさせる指導の工夫が必要である。

③ 理科

学習を通して獲得した知識・技能を、実際の自然や日常生活の事物・現象にあてはめ、「比較」「関連づけ」「条件の制御」「推論」等の考え方を働かせる活動について充実させる必要がある。また、予想したことを検証する実験を考えたり、得られた結果から自分の考えを修正したりするなどの活動を通して、より深い学びへとつなげる指導の工夫が必要である。

(2) 中学校

① 国語

聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して、話すことができるかどうかを見る設問において、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるような原稿を条件に沿って読み取ることに課題がある。スピーチなどの活動を行う際には、聞き手にとって分かりやすい言葉を選択して話すことや、聞き手の反応を予想して分かりやすい言葉に言い換えたり、説明を加えたりするなど指導の工夫が必要である。

② 社会

複数の資料から社会的事象を読み取り、それらを比較・関連させて考察し、条件に従って表現することに課題がある。授業においては、資料活用や思考・判断したことをもとに説明したり議論したりする学習を充実させるなど、教師による説明中心の授業や一問一答的な授業を改善する必要がある。

③ 数学

数量の関係を文字式に表すときに、それらの関係を図に表したり、具体的な数に置き換えたり、言葉を使った式を利用したりする活動を充実させ、数量の関係を捉えられるようにする必要がある。特に関数の領域では、関数の特徴を理解するときに、表、式、グラフの相互関係から気づかせたり、表、式、グラフを相互に関連付けて理解したことを説明したりする指導の工夫が必要である。

④ 理科

資料から読み取ったことを根拠として、問題に答えたり、文章で説明したりすることに課題がある。根拠をもとに予想や仮説、考察などの説明をしたり、授業のまとめを自分の言葉で簡単な文章としてまとめたりするなど指導の工夫が必要である。

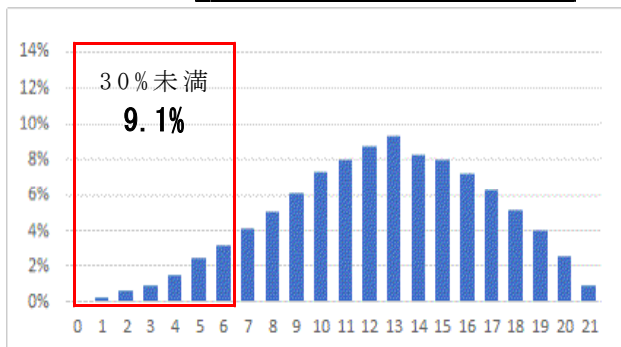
⑤ 英語

道案内など自然な口調で話す英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることに課題がある。授業では、生徒自らが自分のこととして捉え、英語を発することができるような、実際の場面を想定した言語活動を設定するなど指導の工夫が必要である。

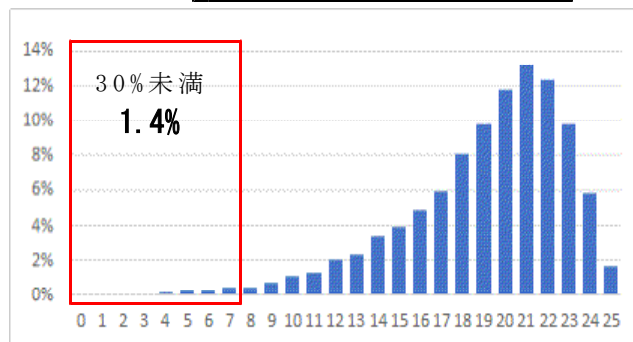
6 集計結果（正答数の度数分布グラフ）

(1) 小学校

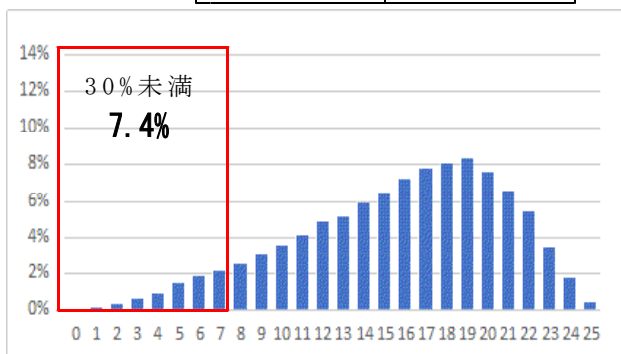
【 小3国語 】	平均正答数	平均正答率
	12.5 / 21	59.4%



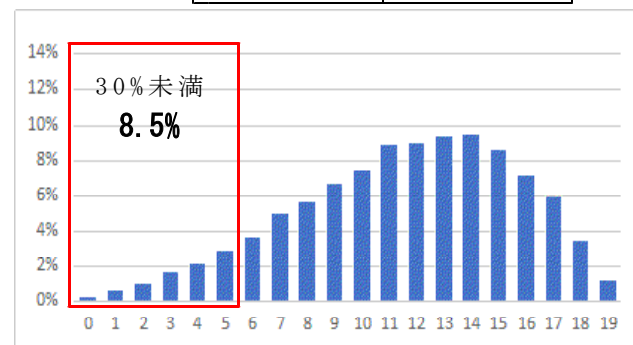
【 小3算数 】	平均正答数	平均正答率
	19.1 / 25	76.2%



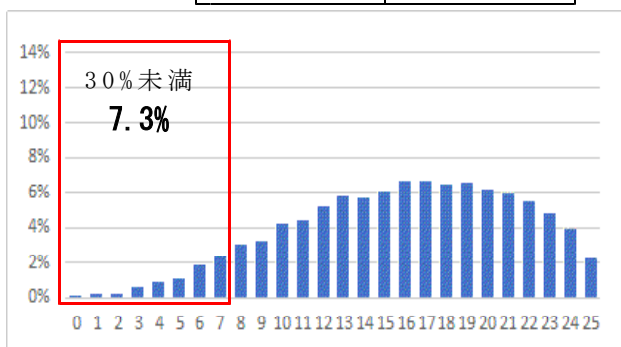
【 小4算数 】	平均正答数	平均正答率
	15.7 / 25	62.8%



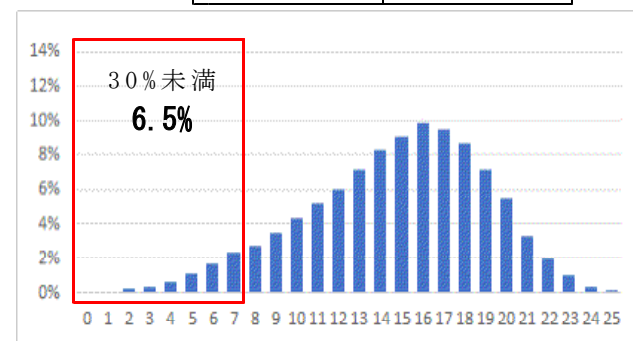
【 小5国語 】	平均正答数	平均正答率
	11.6 / 19	60.9%



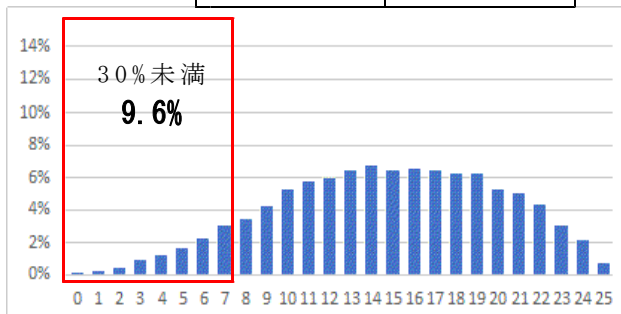
【 小5算数 】	平均正答数	平均正答率
	15.9 / 25	63.4%



【 小5理科 】	平均正答数	平均正答率
	14.7 / 25	58.9%



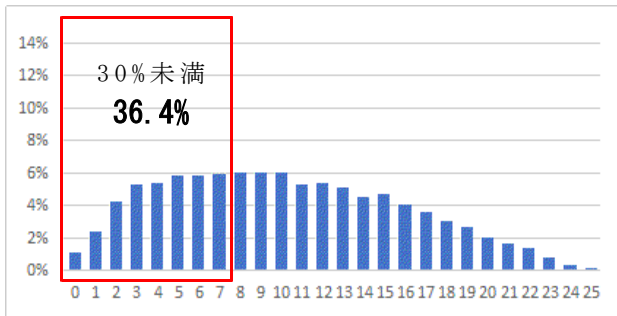
【 小6算数 】	平均正答数	平均正答率
	14.7 / 25	58.9%



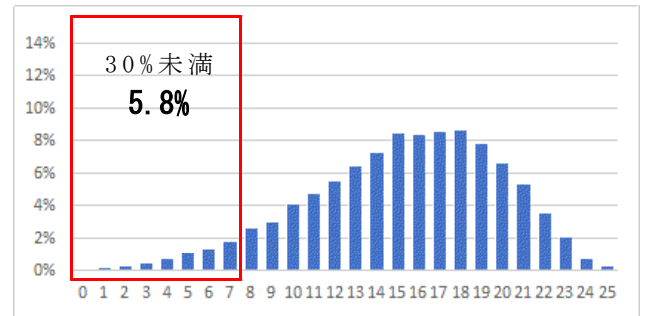
- 3年生の算数は、他教科に比べ、分布状況が正答数が多い右側に寄り、正答数30%未満の児童の割合が小さい。
- 算数では、学年が上がれるにつれ、分布の状況にばらつきが見られ、30%未満の児童の割合も大きくなる傾向がある。
- 国語では、他教科に比べ、3・5年ともに30%未満の児童の割合が大きい。

(2) 中学校

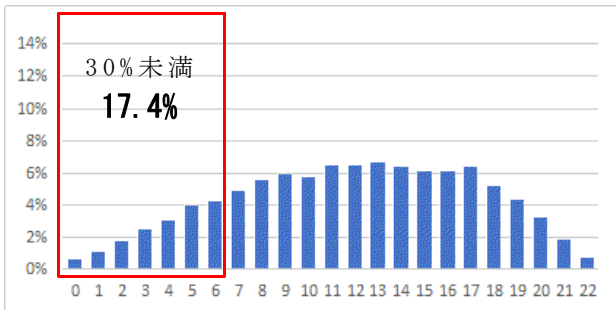
【 中1 数学 】	平均正答数	平均正答率
	10.2 / 25	40.8%



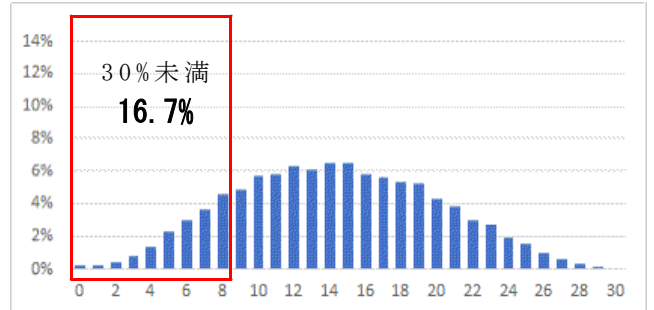
【 中2 国語 】	平均正答数	平均正答率
	15.3 / 25	61.2%



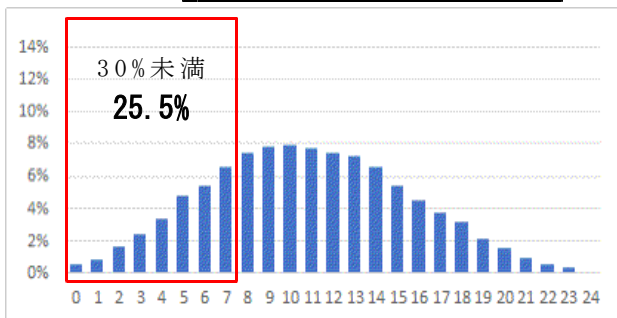
【 中2 数学 】	平均正答数	平均正答率
	11.9 / 22	53.9%



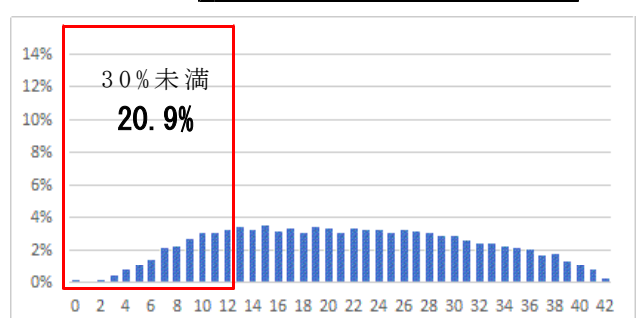
【 中2 社会 】	平均正答数	平均正答率
	14.2 / 30	47.7%



【 中2 理科 】	平均正答数	平均正答率
	10.8 / 24	45.1%



【 中2 英語 】	平均正答数	平均正答率
	21.6 / 42	51.4%



- 中2 国語は、他教科に比べ、分布状況が正答数が多い右側に寄り、正答数30%未満の生徒の割合も小さい。
- 中2 国語以外の教科は、正答数30%未満の生徒の割合が15%以上になっている。
- 中2 英語は、他教科に比べ、分布の状況にばらつきが見られる。
- 中1 数学は、他教科に比べ、分布状況が正答数が少ない左側に寄り、正答数30%未満の生徒の割合が最も大きい。